

このまちの100年

「鹿児島」

南北朝時代、島津氏が東福寺城に居城したことがまちの始まり。戦国時代にはヨーロッパや大陸との交易・文化交流の地としても発展。江戸末期の薩摩藩は工業・軍の近代化を進め、明治維新と、その後の日本の発展の原動力となりました。



昭和初期

金生通りを走る鹿児島市電と乗合自動車。奥の建物は山形屋



昭和初期

大正5年に開園した鴨池遊園地。動物園、運動場、遊園地などがあった。写真はメリーゴラウンド



昭和27年頃

鹿児島を代表する繁華街、天文館。現在、この場所は天文館G3アーケードとなる



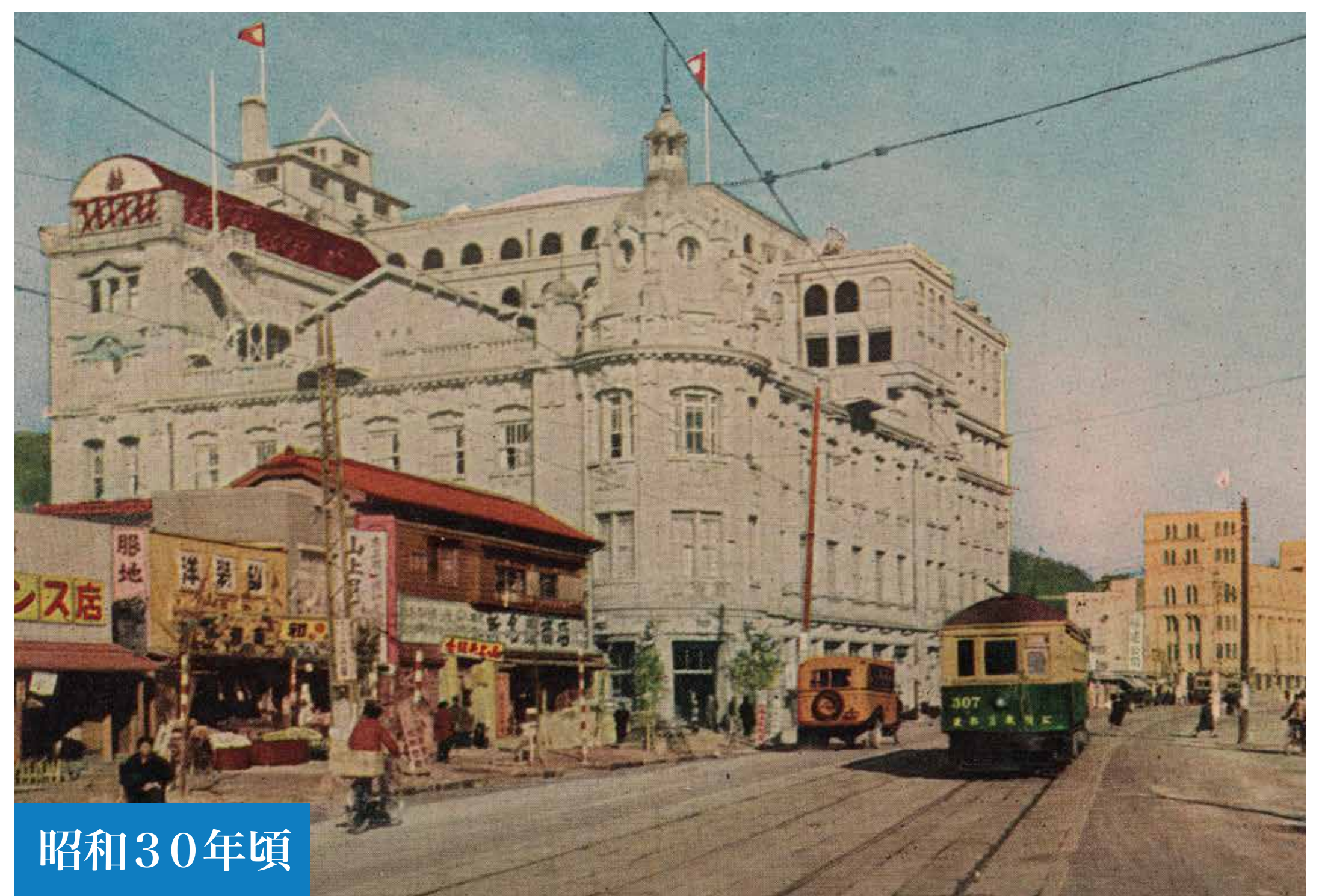
昭和40年頃

天文館通りのアーケード商店街。看板が見える十字屋(CROSS)は現在も中町交差点付近で営業している



昭和30年頃

大正8年に南九州で最初の開港場となった鹿児島港。現在、写真の場所は埋め立てられており、種子・屋久高速船旅客ターミナル付近になる



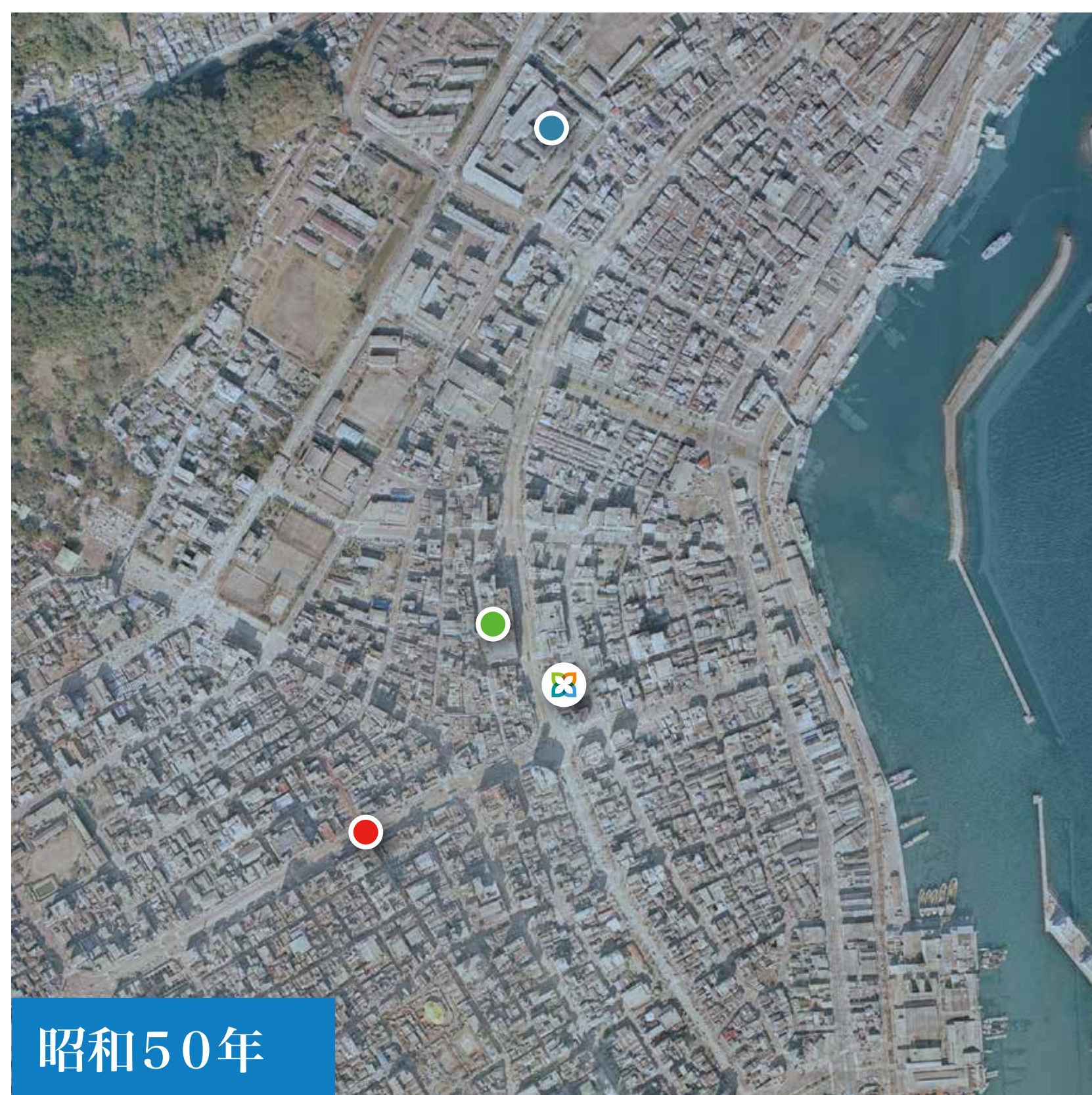
昭和30年頃

江戸時代創業の老舗呉服店の山形屋。大正5年に百貨店となった

上空からみた鹿児島エリア



昭和23年



昭和50年



平成23年

● : 鹿児島県庁/かごしま県民交流センター
 ● : 山形屋
 ● : 天文館通停留場

出典：国土地理院「地図・空中写真閲覧サービス」(一部加工)

編集：株式会社コロモチ